

ロンドンオリンピック大会報告記

有川秀之¹⁾ 本田陽²⁾
1) 埼玉大学 2) 中京大学

【はじめに】

第30回オリンピック競技大会の陸上競技が2012年8月3日から12日までの9日間、英国のロンドンにおいて、世界201カ国から選手2231名（男子1160名、女子1071名）が参加して開催された。今回のオリンピック大会は、嘉納治五郎団長と大森兵蔵監督、男子短距離三島弥彦選手、男子マラソン金栗四三選手の4名で、初めて日本選手団として参加した第5回大会、1912年ストックホルムオリンピックから丁度100年目の節目の大会に、陸上競技選手団として河野洋平団長、高野進監督以下24名の役員（全競技225名）、男子28名、女子18名の計46名の選手（全競技293名）、合計71名（日本選手団全競技518名）が派遣された。

【大会の内容】

高野監督のもと、陸上競技チームの目標は、メダル1、入賞5以上を掲げ大会に臨んだ。しかしながら、IAAF（国際陸上競技連盟）から7月27日に発表されたエントリーリストのオリンピック資格記録（資料1参照）によれば、男子ハンマー投室伏選手が5番目、男子400mハードル岸本選手が7番目、男子50km競歩山崎選手が9番目、女子10000m福士選手が6番目の4名しか1ケタのランキングに入っていないことからみると、目標を達成することは、厳しい戦いであることは予想できた。なお、ランキング20位までをみると男女とも10種目ずつ入っており、難しいことではあるが大舞台でなんとかパーソナルベストやシーズンベストを出すことで順位をあげ、入賞することを願っていた。

結果は、男子ハンマー投室伏選手が銅メダル、男子400mリレーが5位、男子マラソン中本選手が6位に入賞したが、チーム目標には到達できなかった。メダル獲得や入賞した選手は、やはりランキングを

あげての成績であり、大変立派な結果であった。さらに、延べ47種目に参加する中、パーソナルベストが4種目（男子100m山縣選手、男子50km競歩森岡選手、女子5000m・10000m新谷選手）、シーズンベストが14種目（シーズン初レースを2種目含む）という記録結果とともに、大会前の五輪資格ランキングと比較し同順位以上の種目が27種目（57%）あり、コンディションやレース展開という側面から、半数以上の種目で持っている力を発揮し、よく健闘したことが伺える。

また、選手全員がスタートラインに立てたことは、前回の北京オリンピックの反省を生かし、医事委員会と綿密な連携をとりながら調整を進めたことによるものと考えられる。さらにJOCマルチサポート事業種目に男子ハンマー投、男子やり投、男子400mリレー、女子マラソンが選定され、強化が進められたことも大きな財産となったことは間違いない。

【選手村での生活】

日本選手団として9階建のアパートメント1棟（36部屋）と、隣の棟にJOC本部役員室と数部屋が用意され、陸上競技には、男性用として7～9階に7部屋、女性用として2階に4部屋、その内、男女1部屋ずつは他競技団体との共有で割り当てられた。各部屋は、基本的にツインで3ベッドルーム、2つのトイレ・バスルーム、リビングにはオリンピック放送が見られるテレビがあり、さらに無料でインターネットにつなげることができた。選手村へは、競技開始日に合わせて種目ごとに入村し、今回最後までチームとしての行動を取り、競技が終わった選手も応援やサポートとして最終日まで残ったため、競技期間後半は、競技日程を考慮して、人の入れ替えながら部屋の移動を行なった。ただし、閉会式当日に競技が開催された男子マラソンの選手は、他競技もほとんど終了して選手村全体が騒々しく、気に

なったのではないだろうかと感じられた。

居住環境としては、オリンピック開催期間の後半に入ってきた陸上競技は、JOC本部が気になった問題を前半に解決していただいたようで、不自由はなかった。ただ、無料でランドリーサービスを行っていたが、入村した当初の頃は、洗濯物全部（ランドリーバックごと）が紛失したり、一部がなくなったりしたこともあったが、後半は問題がなかったようである。

食堂については、一度に500名が入れるメインダイニングホールが、24時間営業で行われていた。英国、ヨーロッパ、カリブ、アジアなど地域別のコーナーがあり、様々な民族・文化に対応した食品があり、バラエティに富んでいた。ただ、夜10時過ぎるとアジア系を含み一部のコーナーが閉まるのが残念であった。しかしながら、選手は、選手村から徒歩で約20分のところにあるマルチサポートハウスの食事を利用することも多く、問題なく対応できた。また、選手村の数か所に軽食が取れる出店（もちろん無料）があり、サンドイッチ、コーヒー、サラダなど提供され、朝食には十分であった。

輸送関係では、メインダイニングホールに近い所に輸送モールがあり、練習会場としてオリンピックスタジアムのウォームアップ場までバスで10分、また別の練習会場までバスで20分であり、計画通りであった。さらにバスが混雑して乗れなかったり、バスを長く待ったりというストレスもなく、全く問題がなかった。

競技会場の雰囲気は、陸上競技の人気は高くスタジアムが常に満員となり、安くない入場料を払ってくる観客は、家族連れを除き低年齢や中・高校生は少なく、目の肥えた人ばかりのようであった。そのことは、自国の選手やトップの選手はもちろんのこと、最終競技者がゴールするまで、大きな声援をおくっていたことから、スポーツ文化の深さを感じ取ることができた。

気候については、陸上競技が開始された頃は、天候が不順で20度前後の気温で1日に数回雨が降るといった状況であり、特に女子マラソンの時は、気温も寒く雨量も多かった。しかしながら、後半は、朝晩は涼しく日中は25度を超えることもあり、英国らしい天候もあった。

選手村以外にスタッフ用の宿舎として、JOCが手配してくれたクイーン・メアリー大学（Queen Mary College）もあり、跳躍・混成・男子マラソンコーチら4名が滞在した。クイーン・メアリー大学は選手村のあるストラットフォード駅（Stratford）か

ら地下鉄で一つ目の駅（Mile End）で、選手村からはシャトルバスが20～30分おきに運行しており、15分ほどで到着する距離であった。

宿舎は学生寮の一人部屋を使用し、住宅街の中に位置する簡素なキャンパス内には食堂やコインランドリー、コンビニエンスストアなどがあり快適な環境であった。大学近辺には深夜まで営業しているコンビニエンスストアのような店や飲食店も多数あり、競技終了が遅くなった場合も便利であった。

【大会直前の調整合宿地】

選手村に入る直前は、中長距離・マラソン・競歩ブロックは、ヒースロー空港から車で約30分のところにあるセントメリー（St. Mary's）大学において、短距離・ハードル・混成ブロックは、ドイツのフランクフルト空港近くのノイ・イーゼンブルク（Neu Isenberg）競技場において調整合宿を行った。なお、ハンマー投の室伏選手は、IOC委員の選挙の関係もあり、早くから選手村に入村し、選手村と（JOCと提携した）ラフバラ大学を行き来しながら調整合宿を行い、跳躍種目の棒高跳や他の投てき選手は、直接選手村へ入村した。

中長距離・ロード種目を中心とした直前合宿地のセントメリー大学では、宿泊には学生寮が準備され、広いスペースではなかったが個室で、ベッド、机、シャワー・トイレなどが設置されており、さらに大学側から新たにネット環境も整えていただいた。食事については、女子マラソンマルチサポート事業も含めて、日本からの栄養士・調理士の対応により、大学のカフェテラスやその厨房を借りて、日本と変わらない環境で提供することができ好評であった。練習環境としては、大学内に6レーンの柔らかめの全天候トラック、芝生グラウンド、低酸素実験室、



セントメリー

ウェイトルームがあった。また、近隣にいくつも大きな公園があり、長距離走にとっては、問題ない環境であった。さらに、マルチサポート事業の関連で、各選手にはコンディションマットレス「エアウィーブ」を貸与した。また、酸素カプセル、ポータブルサウナ、高酸素低酸素吸入器、湯船などを備えたリラックスルームも整えることができ、女子マラソンマルチサポート担当者として準備にあたった長沼祥吾氏の苦勞が実ったと感じられた。

一方、短距離を中心としたドイツ・フランクフルト近郊のノイ・イーゼンブルク (Neu Isenburg) での直前合宿は、2003年パリ世界選手権以降、ヨーロッパで国際大会が開催される際(2004年アテネ五輪、2005年ヘルシンキ世界選手権、2006年アテネワールドカップ、2009年ベルリン世界選手権等)には短距離陣を中心に事前調整合宿を行った町であり、当時からの選手やスタッフにとってはなじみの深い場所である。男女の短距離陣(男子400mH陣を含む)は7月23日に、女子ハードル陣(木村文子選手、久保倉里美選手)は7月25日にフランクフルト入りし、男子短距離と女子ハードル陣は7月31日に、女子短距離は8月3日にオリンピック選手村に移動した。男子400mHの中村明彦選手と十種競技の右代啓祐選手は7月27日にフランクフルト入りし、中村選手は7月31日、右代選手は8月3日にそれぞれ選手村入りした。



ノイイーゼンブルク競技場

地元自治体の運動公園内の陸上競技場(サッカー場も兼ねる)は地域スポーツクラブが管理・運営しており、ノイ・イーゼンブルク市体育局と地元クラブのご厚意により7月23日から8月2日まで日本陸上競技選手団が占有使用することができた。直線8レーン・周回6レーンのコンパクトで質素な競技場はレーンの改修工事(ウレタン製走路の張り替

え)が日本選手団到着の直前までかかり実際に使用できるか心配されたが、棒高跳びのピットも含む全てのフィールド練習場(投てき競技を除く)が問題なく使用できた。ウェイト場は陸上競技場に隣接する体育館の中にあり、週末など体育館が閉まる際には管理人が特別に鍵を開けてくれるなどの対応してもらえた。ウェイトの重量がやや不足がちであったが、短距離が中心の合宿であったため特に大きな問題はなかった。唯一十種競技の右代選手に関しては重量が十分でなかったため、ドイツ陸連に依頼し、30kmほど離れたマインツ市のドイツ陸連強化センターのウェイト場を使用することができた。投てき練習用には競技場の横に投てき専用の芝生広場があり、砲丸・円盤・ハンマーのサークルが設置されていた。

宿舎は以前から使用しているホテルで、食事や部屋の環境共に快適であった。ホテルから競技場までは車で5分、徒歩20分程度の距離で、選手は現地で借りたレンタカーでの輸送、スタッフは徒歩での移動であった。

ヨーロッパ内での飛行機の移動では棒高跳用のポールを輸送できる便が極端に少ないため、右代選手の十種競技で使用するポールは日本陸連の平野了氏が車に積んでロンドンの選手村まで輸送することとなった。一人で7~8時間車を運転し、ドーバー海峡の地下トンネルを通過してイギリス・ロンドンの選手村までポールを輸送していただいた平野氏の労力に感謝したい。

ドイツは気候的には日本とイギリスの間で、猛暑の日本から肌寒いイギリスに移動する前の調整場所(気温・湿度調整、時差調整)として、短距離を中心とした種目には適切であったと思われる。また、競技場、宿舎共にゆったりとした環境であったため、選手村に入る前の調整合宿としては良い環境であったといえる。

【最後に】

4年に一度のオリンピック大会であり、心身共に万全のコンディションでなければ、世界レベルでの戦いは当然困難となる。そのため、選手が100パーセントのパフォーマンスを発揮できるよう、今回同様に、今後もチームジャパンとして連携してサポート環境を整える手段・方法を蓄積し、次回のオリンピックも取り組む必要がある。

資料1 ロンドンオリンピック結果分析

No.	種目	氏名	PB	SB	五輪資格		競技成績			順位	PB達成率(%)			SB達成率(%)		
					記録	ランク	予選	準決勝	決勝		予選	準決勝	決勝	予選	準決勝	決勝
1	100m	江里口 匡史	10.07	10.18	10.14	28	10.30	-	-	32	97.8	-	-	98.8	-	-
2	100m	山縣 亮太	10.08	10.08	10.08	19	10.07	10.10	-	14	100.1	99.8	-	100.1	99.8	-
3	200m	高瀬 慧	20.42	20.42	20.42	21	20.72	20.70	-	18	98.6	98.6	-	98.6	98.6	-
4	200m	飯塚 翔太	20.45	20.45	20.45	25	20.81	-	-	36	98.3	-	-	98.3	-	-
5	200m	高平 慎士	20.22	20.56	20.49	37	20.57	20.77	-	19	98.3	97.4	-	100	99.0	-
6	400m	金丸 祐三	45.16	45.47	45.23	28	46.01	-	-	28	98.2	-	-	98.8	-	-
7	4*100mR	山縣・江里口・高平・飯塚・(九)	38.03	38.69	38.66	15	38.07	-	38.35	5	99.9	-	99.2	101.6	-	100.9
8	4*400mR	高瀬・金丸・東・中野	3:00.76	3:01.04	3:01.04	14	3:03.86	-	-	13	98.3	-	-	98.5	-	-
9	800m	横田 真人	1:46.16	1:46.19	1:46.19	44	1:48.48	-	-	34	97.9	-	-	97.9	-	-
10	5000m	佐藤 悠基	13:23.57	13:28.79	13:25.53	41	13:38.22	-	-	27	98.2	-	-	98.8	-	-
11	10000m	岸本 鷹幸	27:38.25	27:57.07	27:57.07	28	-	28.44.06	-	22	-	-	96.2	-	-	97.3
12	400mH	中村 明彦	48.41	48.41	48.41	7	DQ	-	-	-	0	-	-	0	-	-
13	400mH	館野 哲也	49.38	49.38	49.38	32	DQ	-	-	-	0	-	-	0	-	-
14	400mH	山本 聖途	49.49	49.49	49.49	36	49.95	-	-	26	99.1	-	-	99.1	-	-
15	棒高跳	室伏 広治	5.62	5.62	5.60	31	NM	-	-	-	0	-	-	0	-	-
16	ハンマー投	ダイーン 元氣	84.86	72.85	81.24	5	78.48	78.71	-	3	92.5	-	92.8	107.7	-	108.0
17	やり投	村上 幸史	84.28	84.28	84.28	17	82.07	79.95	-	10	97.4	-	94.9	97.4	-	94.9
18	やり投	右代 啓祐	83.95	83.95	83.95	19	77.80	-	-	24	92.7	-	-	92.7	-	-
19	十種競技	鈴木 雄介	8073	8037	8073	27	-	7842	-	20	-	-	97.1	-	-	97.6
20	20km競歩	藤澤 勇	1:20:12	1:20:38	1:20:38	17	-	1:23:53	-	36	-	-	95.5	-	-	100.0
21	20km競歩	西塔 拓己	1:21:01	1:21:01	1:21:01	28	-	1:21:48	-	18	-	-	98.0	-	-	98.6
22	20km競歩	森岡 紘一郎	3:44:45	3:45:22	3:44:45	13	-	1:22:43	-	25	-	-	97.9	-	-	97.9
23	50km競歩	山崎 勇喜	3:40:12	3:41:47	3:41:47	9	-	3:43:14	-	10	-	-	100.7	-	-	101.0
24	50km競歩	谷井 孝行	3:43:56	3:43:56	3:43:56	11	-	DQ	-	-	-	-	0	-	-	0
25	50km競歩	藤原 新	2:07:48	2:07:48	2:07:48	14	-	DNF	-	-	-	-	0	-	-	0
26	マラソン	山本 亮	2:08:44	2:08:44	2:08:44	19	-	2:19:11	-	45	-	-	91.8	-	-	91.8
27	マラソン	中本 健太郎	2:08:53	2:08:53	2:08:53	21	-	2:18:34	-	40	-	-	92.9	-	-	92.9
28	マラソン							2:11:16	-	6	-	-	98.2	-	-	98.2

資料1 ロンドンオリンピック結果分析

No.	種目	氏名	PB	SB	五輪資格		競技成績			順位	PB達成率(%)			SB達成率(%)		
					記録	ランク	予選	準決勝	決勝		予選	準決勝	決勝	予選	準決勝	決勝
1	100m	福島 千里	11.21	11.34	11.24	32	11.41	-	-	28	98.2	-	-	99.4	-	-
2	200m	福島 千里	22.89	23.12	23.12	48	24.14	-	-	48	94.8	-	-	95.8	-	-
3	4*100mR	土井・市川・福島・佐野・(高橋)	43.39	43.79	43.39	12	44.25	-	-	15	98.1	-	-	99.0	-	-
4	5000m	新谷 仁美	15.13.12	15.17.92	15.13.12	15	15.10.20	-	-	18	100.3	-	-	100.8	-	-
5	10000m		31.28.26	31.28.26	31.28.26	12		30.59.19		9		101.6				101.6
6	5000m	吉川 美香	15.15.33	15.33.48	15.31.78	37	15.16.77	-	-	23	99.8	-	-	101.8	-	-
7	10000m		31.28.71	31.28.71	31.28.71	13		31.47.67		16		99.0				99.0
8	5000m	福士加代子	14.53.22	15.18.46	15.18.46	27	15.09.31	-	-	17	98.2	-	-	101.0	-	-
9	10000m		30.51.81	31.43.25	30.54.29	6		31.10.35		10		99				101.8
10	100mH	木村 文子	13.04	13.04	13.04	36	13.75	-	-	37	94.8	-	-	94.8	-	-
11	400mH	久保倉 里美	55.34	55.98	55.34	20	55.85	56.25	-	20	99.1	98.4	-	100.2	99.5	-
12	棒高跳	我孫子 智美	4.40	4.40	4.40	38	4.25	-	-	19	96.6	-	-	96.6	-	-
13	やり投	海老原 有希	62.36	62.36	62.36	18	59.25	-	-	16	95.0	-	-	95.0	-	-
14	20km競歩	大利 久美	1:29:11	1:29:48	1:29:11	12		1:33:50		37		95.0				95.7
15	20km競歩	淵瀬 真寿美	1:28:03	1:30:36	1:30:36	21		1:28:41		11		99.3				102.2
16	20km競歩	川崎 真裕美	1:28:49	1:30:51	1:30:25	19		1:30:20		18		98.3				100.6
17	マラソン	重友 梨佐	2:23:23	2:23:23	2:23:23	10		2:40:06		79		89.6				89.6
18	マラソン	木崎 良子	2:26:32	-	2:26:32	32		2:27:16		16		99.5				100.0
19	マラソン	尾崎 好美	2:23:30	2:24:14	2:23:56	16		2:27:43		19		97.1				97.6